

IR資料 - 2026年3月期 -

2026年5月12日

ニプロ株式会社

専務取締役・CFO 余語 岳仁



2025年度 業績サマリー & TOPICS	－ 3
2025年度 業績	－ 4
販売費および一般管理費 主要科目	－ 5
研究開発費	－ 6
設備投資額・減価償却費	－ 7
セグメント売上高・セグメント利益	－ 8
セグメント別売上高	－ 9-12
2026年度 通期予想（連結/投資関連/セグメント別）	－ 13-17
中期経営計画の進捗状況	－ 18-19
報告セグメントの変更について	－ 20
Appendix	
為替レート/為替感応度/製品分類表	－ 22
セグメント別・製品群別の売上高	－ 23
セグメント別・地域別の売上高	－ 24
製品別売上高	－ 25-26

- 本日、決算の概要に加えまして、来年度の予算、中期計画に対する進捗についてご説明させていただきます。

売上高

- 医療セグメントでは、海外でダイアライザが堅調に拡大。医薬セグメントは前期並み、ファーマパッケージングセグメントは欧米向けが前期を下回った。連結売上高の成長率は前年対比+2.5%と増収。
- 通期予想比では▲2.4%で着地。利益重視経営のもと無理な数量追求を控えたことや、国内向けダイアライザの一部製品の出荷制限、インドネシア政府方針変更に伴う需要停滞等の一過性要因が影響。

営業利益

- 人件費は業績好調に伴う従業員還元などにより増加したほか、物流費のコスト増も継続したものの、原材料費の低減や価格転嫁を含む適正価格での販売が進展し、売上総利益が改善、営業利益は期初予想の370億円を達成。
- 事業成長とコスト構造の改善が両立する利益重視経営への転換が引き続き進展。

TOPICS 高付加価値製品・技術への選択と集中を通じて、中長期の成長基盤を強化

ニプロファーマ株式会社の一部工場を三笠製薬株式会社へ譲渡

- 医薬品製造子会社であるニプロファーマ株式会社のパップ剤・テープ剤・外用剤の製造工場である「埼玉第2工場(埼玉県春日部市)」および「羽生工場(埼玉県羽生市)」の三笠製薬株式会社への譲渡に向けた基本合意を締結。
- ニプロファーマの主力剤型である注射剤及び経口剤に経営リソースを集中。

世界初^{*}の脳血管内 (Neuro) OCTイメージングシステム(nOCT)の臨床試験開始

- Spryte社が開発を進める世界初の脳血管内 (Neuro) OCTイメージングシステムについて、臨床試験開始 (First in Human)。医師に新たなレベルの血管内情報を提供し、脳動脈瘤治療における意思決定、手技の精度向上、患者様にとってより良い治療への貢献を目指す。

※Scienceで世界初の技術として掲載

3

- まず、本年度の定性的なサマリーです。
- 売上高はこれまで平均8~9%増収を続けてきましたが、今年度においては2.5%増となり、売上成長率がこれまでと比較して低くなっております。
- 主な要因としては、これまででは為替が円安傾向で続いていましたが、前年対比で若干の円高傾向になったことに加え、主力製品のダイアライザが国内において生体膜の立ち上げに少し苦労し、出荷制限が行われていたことが挙げられます。
- 同製品の出荷制限は解消しておりますが、そのほか、ファーマパッケージングにおける市中在庫の消化ペースが想定より遅いことから、前年対比マイナスとなり、売上高は前年対比で2.5%の増収にとどまりました。
- 一方、営業利益は過去最高を更新しています。
- 業績が好調なことにより、役職員向けの決算賞与が増え、物流コスト増等があったものの、価格是正や生産性の改善、原価低減、電力料の低下により、370億円超えを達成しています。
- トピックとしては、「選択と集中」を進めるため、今回、ニプロファーマの工場の一部を三笠製薬株式会社様へ譲渡する契約を締結しました。
- 集中の観点では、世界初の脳内血管のイメージングシステムを開発している会社を買収しました。こちらは2月からFDAの許可のもと臨床治験が開始されています。

単位:億円	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	為替影響を除く 増減額 (増減率)	2025年度 通期予想	四半期別業績推移				
						2024年度 4Q	2025年度			
							1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	6,445.8	6,605.3	+159.5 +2.5%	+169.1 +2.6%	6,770.0	1,653.0	1,592.2	1,581.6	1,699.2	1,732.3
売上原価 (※1)	4,526.8	4,522.5	▲4.3 ▲0.1%	+27.3 +0.6%	4,710.0	1,191.2	1,090.6	1,081.9	1,187.3	1,162.5
売上総利益 (※2)	1,918.9	2,082.8	+163.8 +8.5%	+141.7 +7.4%	2,060.0	461.7	501.5	499.6	511.8	569.8
販売管理費	1,652.9	1,706.5	+53.5 +3.2%	+56.9 +3.4%	1,690.0	417.8	429.4	418.3	397.7	461.0
営業利益	265.9	376.2	+110.2 +41.5%	+84.7 +31.9%	370.0	43.9	72.1	81.2	114.0	108.7
経常利益 (※3)	108.1	197.2	+89.0 +82.3%	-	242.0	▲31.9	35.1	47.1	93.7	21.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	51.1	135.0	+83.9 +164.1%	-	129.5	▲14.8	32.7	26.3	107.7	▲31.7
	0.8%	2.0%			1.9%	▲0.9%	2.1%	1.7%	6.3%	▲1.8%

(※2) 売上総利益への
未実現利益の影響額
FY2024 4Q 累計 ▲33.0億円
FY2025 4Q 累計 +6.1億円

(※3) 為替損益
FY2024 4Q 累計 ▲53.8億円
FY2025 4Q 累計 ▲41.9億円

(※1) 再生医療の製造原価の一部を研究開発費へ振替えております (前年も同様)

売上高	医療セグメントの海外販売において、ダイアライザが米州、欧州、中国で好調であったことに加え、国内販売においては、注射剤類、パスキュラー関連製品が好調。医薬セグメントにおいても、注射剤の売上が増加。
売上総利益	労務費が増加したものの、価格転嫁や品目整理、原材料費が減少したことにより、前年対比で163.8億円増加。
営業利益	国内外で人件費が増加したほか、欧米における運送費の増加により販売管理費は増加したものの、販売増に加え、売上原価の上昇を抑制できた影響が大きく、前年対比で110.2億円増加。
経常利益	支払利息が増加したものの、営業利益の増加、為替差損額減少により、前年対比で89.0億円増加。
当期純利益	利益増加に伴い法人税が増加したものの、G2/Spryte社の段階取得に係る差益を51.1億円、固定資産売却益を41.4億円を計上したことなどで、前年対比で83.9億円増加。

- 2025年度の業績に関してご説明いたします。まず、売上高は6,605億円で2.5%の増収となりました。先ほど触れましたが、粗利率31.5%と収益性の改善に伴い、通期予想の30.4%、前年度実績29.8%と比較しても大幅に改善しています。
- 一方、販管費では予算想定レートより随分と円安が進んだものの、経費の効率化に努めた結果、約1,700億円となり、差し引きで営業利益は376億円と通期予想の370億円を若干上回ることができました。前年対比では約40%の増益となりました。
- そこから最終利益は135億で、通期予想129億円をクリアし、前年に比べ3倍近い増加になりました。
- 毎期、利益の変動要因になっていた未実現利益は、前年度はマイナス33億円だったものの、今年度は在庫管理の徹底に努めた結果、6億円のプラスとなりました。

単位:億円	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計		増減額 (増減率)	2025年度 通期予想 (進捗率)
		実績	構成比		
人件費	523.0	577.9	33.9%	+54.9 +10.5%	565.3 102.2%
研究開発費(※1)	237.0	233.0	13.7%	▲4.0 ▲1.7%	208.2 112.0%
運送費	161.0	172.3	10.1%	+11.2 +7.0%	176.9 97.4%
償却費(※2)	157.8	145.8	8.5%	▲11.9 ▲7.6%	155.1 94.1%
支払手数料(※3)	99.3	103.3	6.1%	+4.0 +4.1%	109.7 94.3%
販促費(※4)	80.2	88.1	5.2%	+7.8 +9.8%	84.1 104.8%
旅費交通費	48.2	49.1	2.9%	+0.8 +1.8%	51.3 95.8%
保管料	42.1	42.9	2.5%	+0.7 +1.8%	39.0 110.1%
上記以外の科目	303.9	293.6	17.2%	▲10.2 ▲3.4%	300.4 97.8%
合計	1,652.9	1,706.5	100.0%	+53.5 +3.2%	1,690.0 101.0%

(※1) 研究開発費・試験研究費・開発償却費
 (※2) 減価償却費・のれん償却費
 (※3) 支払手数料・顧問料
 (※4) 販売手数料・見本品費・広告宣伝費・
 交際接待費

- 人件費** | 国内外でのベースアップ、業績好調に伴う従業員還元などの増加影響により、前年対比で54.9億円増加。
- 運送費** | 欧米における販売増加に伴う海外運送費の増加により、前年対比で11.2億円増加。
- 販促費** | 大阪・関西万博のパビリオン出展費用等により、前年対比で7.8億円増加。

5 |

- 販管費の内訳はご覧いただいた通りですが、ハイライトしたいのは、人件費が大幅に増加していることです。こちらは業績連動の決算賞与が前年に比べて大幅に増加したことが主な要因です。それ以外は人件費の高騰を人員コントロールで一定程度抑えています。
- 物流費は、海外輸送費の増加が要因で増えています。

	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	2025年度 通期予想
単位:億円				
医療 (※1)(※3)	176.3	173.0	▲3.2 ▲1.9%	151.7 114.1%
医薬 (※1)	96.1	91.6	▲4.5 ▲4.7%	91.1 100.6%
ファーマ パッケージング (※1)	6.0	3.4	▲2.6 ▲43.5%	7.2 47.7%
合計 (※2)	278.6	268.1	▲10.4 ▲3.7%	250.0 107.3%

(※1) 今年度より会計基準における研究開発費の定義に基づき集計方法を改めたため、前年度の数値も修正しています。

(※2) 製造原価および販売管理費における研究開発費。

(※3) 再生医療の製造原価に含めていた一部費用を研究開発費へ科目振替しております。

✓ **コスト効率を高めつつ、成長ドライバー創出に向けた戦略的な研究開発投資を実施**

- 25年度の利益創出に貢献したホルモン関連の抗がん剤（徐放性注射製剤）や末梢血管治療用の高付加価値バルーンカテーテルなどへの投資を実施。

- 研究費は前年対比で概ね同水準ということで取り立ててコメントはございませんが、コスト効率を高めながら成長ドライバーに向けた開発を進めています。

	設備投資額				減価償却費			
	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	2025年度 通期予想 (進捗率)	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	2025年度 通期予想 (進捗率)
単位：億円								
医療関連	367.4	303.0	▲64.4 ▲17.5%	336.2 90.1%	347.8	367.4	+19.5 +5.6%	388.0 94.7%
医薬関連	197.3	257.3	+60.0 +30.4%	257.2 100.1%	153.1	145.3	▲7.8 ▲5.2%	143.9 101.0%
ファーマパッケージング	116.0	63.0	▲52.9 ▲45.7%	62.2 101.4%	72.8	54.4	▲18.3 ▲25.1%	69.7 78.2%
その他	59.7	17.2	▲42.4 ▲71.1%	51.6 33.5%	51.1	49.5	▲1.6 ▲3.2%	47.6 104.0%
合計	740.5	640.7	▲99.8 ▲13.5%	707.1 90.6%	625.0	616.7	▲8.2 ▲1.3%	649.2 95.0%

※設備投資額は有形固定資産のみの投資額を記載

- 設備投資額** | 医療関連は大館工場でダイアライザ新規ラインの増設、タイ工場の増産投資、米州で工場拡張や透析センター内の装置と備品への投資、ベトナム工場でダイアライザ増産に投資など、全体としては303.0億円となったが、2024年度に大館工場や合肥工場にてダイアライザ関連の投資の大部分が完了したことで、前年対比では64.4億円減少。
 医薬関連はエプロファーマ近江工場の一般製剤棟、伊勢工場の増設など全体としては257.3億円の投資をおこなったことにより、前年対比では60.0億円増加。
 ファーマパッケージングは、アメリカ工場の改修、ドイツ工場とフランス工場の設備等で、合計63.0億円の投資を実施したものの、2024年度はドイツのシリンジ増産投資やアメリカ工場の拡張投資、中国工場のバイアル増産投資等があったことにより、前年対比では52.9億円減少。
- 減価償却費** | 医療関連は、大館工場における第7工場の新設により増加したものの、医薬関連はエプロファーマの機械装置に係る償却減、ファーマパッケージングはフランスの減損損失も影響し、減価償却費は前年対比で8.2億円減少。

- 設備投資は、過去3～4年の間で随分と高水準の設備投資が続いておりましたが、本年度はトータルで640億円でした。これは補助金の受取収入を引く前のグロスでの投資額です。
- 通期予想707億円に対して、10%前後のコントロールができ、節減しております。

	セグメント売上高				セグメント利益			
	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	2025年度 通期予想 (進捗率)	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	2025年度 通期予想 11月時点 (利益率)
医療関連セグメント	5,050.7	5,236.1	+185.3 +3.7%	5,334.2 98.2%	466.3	523.3	+57.0 +12.2%	533.9 10.0%
医薬関連セグメント	791.2	811.0	+19.8 +2.5%	863.7 93.9%	106.2	120.9	+14.7 +13.8%	107.8 12.5%
ファーマパッケージングセグメント	592.6	546.8	▲45.7 ▲7.7%	568.0 96.3%	▲2.7	▲15.8	▲13.1 -	▲20.6 ▲3.6%



医療セグメント | 減価償却費や労務費が増加したものの、売上高が増加したことに加え、原材料費や電力費が減少したことにより事業全体のセグメント利益は前年対比で57.0億円増加。

医薬セグメント | 原材料価格・人件費上昇コストの価格転嫁による値上げや品目整理により利益率が向上したことにより事業全体のセグメント利益は前年対比で14.7億円増加。

ファーマパッケージングセグメント | 売上高の減少により、セグメント利益は前年対比で13.1億円減少。

- セグメント別の損益のご説明をさせていただきます。
- 傾向を見ていただくとはっきりしていますが、医療セグメントが一番調子よく売上が伸びて、利益も伸びています。
- 医薬セグメントは売上の伸びは若干低いですが、原価管理に努めた結果、利益を大幅に伸ばしています。
- 一方で、残念ながらファーマパッケージングセグメントにつきましては、市中在庫の過剰がなかなか消化されず、売上が前年対比マイナス、そして利益についても前年対比でマイナスでしたが、中間決算時点（11月時点）で修正した利益率は下回らない範囲で着地できました。

売上高	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	2025年度 通期予想
国内事業	2,277.9	2,316.1	+38.1 +1.7%	2,439.8 94.9%
医療機器	1,158.6	1,200.0	+41.4 +3.6%	1,261.7 95.1%
医薬品	1,118.9	1,116.1	▲2.8 ▲0.3%	1,178.1 94.7%

医療機器の注射針類の価格転嫁やバスキュラー関連製品の薬剤溶出バルーンの適応拡大・市場拡大が牽引し、前年対比で増加。前四半期対比では、ダイアライザは増加したものの、その他製品は季節性の影響を受け減少。

医療機器：前年対比 +41.4億円

◆主な増減要因 *単位：億円

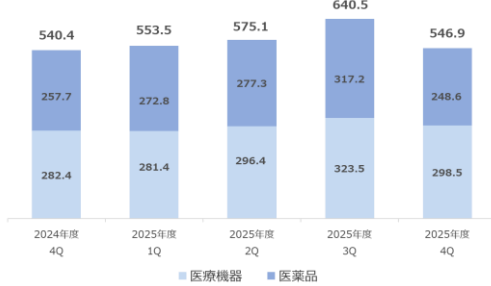
ダイアライザ	▲3.4	ファイナフラックスの限定出荷が解除されたものの、累計で減少
注射針類	+21.4	価格転嫁などで増加
輸液関連製品	+7.9	価格転嫁などで増加
バスキュラー関連製品	+16.7	薬剤溶出バルーンの適応拡大・市場拡大 未梢用バルーンカテーテル製品が好調

医薬品：前年対比 ▲2.8億円

◆主な増減要因 *単位：億円

経口剤	▲24.4	品目整理、薬価下落が引き続き影響し、販売数量減少
外用剤・貼付剤	▲20.5	販売数量減少
注射剤・輸液	+51.7	BS製品、抗がん剤、抗菌薬が好調
体外診断薬等	▲9.7	感染症の小康状態が影響し、減少

四半期別売上高推移



9

- ここからは各セグメントの内訳に触れさせていただきます。
- まず、医療関連セグメントの国内です。医療関連セグメントの国内には医療機器と自社ブランドの医薬品の二つが含まれています。
- 医療機器につきましては前年対比で大幅増ですが、内訳を見ていただきますと、ダイアライザが前年対比でマイナスになっています。これは期中において、在庫が足りず限定出荷を実施し、年度末に限定出荷を解除できたのですが、通期を通じて前年を超えることができなかつたことが、伸び率が少し低くなつた要因です。
- 一方で、値上げを積極的に進めた注射針・輸液、また、ライバルの他社様からシェアを取り戻しつつあるバスキュラー関連がよく伸び、医療機器については前年対比で大幅な増収となっています。
- 医薬品はニプロが力を入れて得意としている注射剤が大きく伸びておりますが、それ以外の外用剤・経口剤につきましては、価格の下落や品目整理が影響して減少となり、前年対比で横ばいの売上となりました。

①医療関連セグメント（国際）売上高



売上高	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	2025年度 通期予想 (進捗率)
国際事業	2,772.7	2,919.9	+147.1 +5.3%	2,894.1 100.9%
B2B(他社ブランド)	329.9	339.1	+9.2 +2.8%	355.9 95.3%
ニプロブランド	2,442.8	2,580.8	+137.9 +5.6%	2,538.2 101.7%
米州	1,078.9	1,132.9	+54.0 +5.0%	1,060.1 106.9%
欧州	525.0	596.0	+71.0 +13.5%	562.1 106.0%
アジア	497.4	487.0	▲10.3 ▲2.1%	536.2 90.8%
中国	341.4	364.7	+23.2 +6.8%	379.8 96.0%

アジアを中心に売上債権回収を優先していることや、昨年的大型入札の反動減の影響はあるものの、ダイアライザやB2Bの好調がカバーし通期では前年比増加。

B2B（他社ブランド）：前年対比+9.2億円

◆主な増減要因

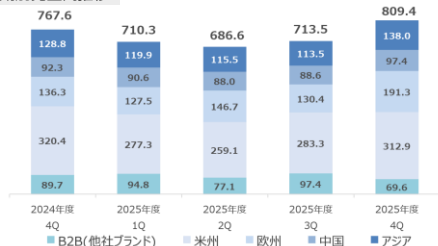
注射針類	米州・欧州における安全機構付き採血セットの販売好調
糖尿病関連製品	GLP-1向けの特殊針が競合製品の台頭により需要鈍化

ニプロブランド：前年対比+137.9億円

◆主な増減要因 *単位：億円

米州	+54.0	ダイアライザ	大型契約、メキシコにて入札獲得により増加
		透析機器	大型契約により増加
		注射剤・輸液	大型契約により増加
欧州	+71.0	ダイアライザ	ATA・HXダイアライザの販売好調
		透析装置	西欧諸国・アフリカにて販売好調
		その他透析関連製品	西欧諸国において血液回路の販売好調
		注射剤・輸液	西欧諸国において透析液の販売好調
アジア	▲10.3	バスキュラー関連製品	バルーンカテーテルやYコネクタ販売好調
		ダイアライザ	インドネシアで政策の影響によりシングルコース化がスローペースとなり顧客の在庫調整が継続 パキスタンで売上債権回収を優先し販売数量抑制
中国	+23.2	透析装置	インド、中東における大型入札の反動により減少
		ダイアライザ	集中購買が本格的に開始され販売数量が増加
		透析センター	患者数増加、透析センター拡大

四半期別売上高推移



- 続いて医療セグメントの国際は、ご覧の通りほとんどの地域で大幅な増収となっておりますが、アジアでのみ減少しています。こちらはインドネシアでシングルコースが推進される政策が決まっていたのですが、我々が取引している卸様がそれに備えて在庫を少し持ちすぎたことで、在庫が消化されるまでの間、売上が少し鈍化すること。また、一部の地域では債権回収を優先して出荷を止めていたことが影響し、前年対比で少しマイナスですが、このあたりが一巡していけば、再度成長が見込まれています。
- それ以外の地域につきましては、非常に好調な成長になっています。

② 医薬関連セグメント 売上高

売上高	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	2025年度 通期予想 (進捗率)
医薬関連事業	791.2	811.0	+19.8 +2.5%	863.7 93.9%
ジェネリック品	335.4	326.4	▲9.0 ▲2.7%	318.7 107.1%
先発品・長期収載品	334.7	356.2	+21.5 +6.4%	430.6 82.7%
OTC・原薬等	47.7	49.5	+1.8 +3.8%	37.5 92.6%
JMIファーマ	73.2	78.8	+5.5 +7.6%	76.9 102.5%

先発長期収載品、GE品ともに注射剤の販売好調により、対前年比増加。

ジェネリック品：前年対比 ▲9.0億円

◆主な増減要因 *単位：億円

注射剤	+11.0	主力抗がん剤の受注増
経口剤	▲6.9	既存品目の受注減
外用剤	▲13.0	受託終了品目の影響

先発品・長期収載品：前年対比 +21.5億円

◆主な増減要因 *単位：億円

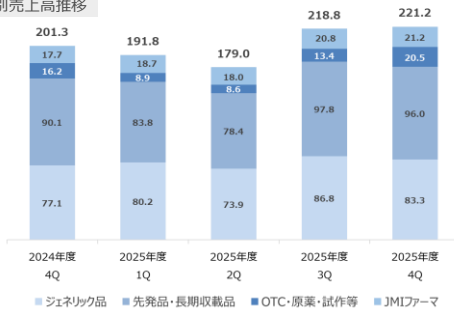
注射剤	+17.4	既存品目の受注増、価格転嫁の実施
経口剤	+4.8	新規品目の販売好調

OTC・原薬・試作等：前年対比 +1.8億円

◆主な増減要因 *単位：億円

外用剤	+2.3	受託終了前の顧客の在庫積み増し
-----	------	-----------------

四半期別売上高推移



11

- 医薬関連セグメントですが、こちらは他社製品の受託のセグメントになっており、それぞれジェネリック品、先発・長期収載品、OTCと分けております。
- ジェネリック品は若干のマイナスでしたが、先発品・長期収載品で伸ばしています。
- 内訳をご覧くださいますと、やはり注射剤が好調となっております。経口剤につきましては他社様も影響のある選定療養、それに加え品目整理の影響で少し伸び悩んでおりますが、注射剤が業績を支えている状況です。

③ファーマパッケージングセグメント 売上高



売上高 単位：億円	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額 (増減率)	2025年度 通期予想 (進捗率)
ファーマパッケージング事業	592.6	546.8	▲45.7 ▲7.7%	567.9 96.3%
日本	143.0	152.5	+9.5 +6.7%	145.9 104.6%
海外	449.6	394.2	▲55.3 ▲12.3%	422.0 93.4%
欧州	280.8	258.8	▲22.0 ▲7.8%	286.5 90.3%
アメリカ	129.6	102.0	▲27.6 ▲21.3%	117.1 87.1%
中国	24.5	20.5	▲3.9 ▲16.2%	4.3 477.8%
インド	14.5	12.8	▲1.6 ▲11.2%	13.9 92.7%

日本国内ではガラス管等の販売が堅調に推移し増収となったものの、欧州で新規参入企業の影響、アメリカでは世界的な在庫調整の影響により、ファーマパッケージングセグメント全体では前年対比減収となった。
一方、足許では欧州・アメリカの販売は拡販、市場在庫回復等の影響により増加傾向。

日本：前年対比 +9.5億円

◆主な増減要因 *単位：億円

日本 +9.5 ガラス管、歯科領域向け製品と製剤同梱用医療機器（注射セット）の売上が増加

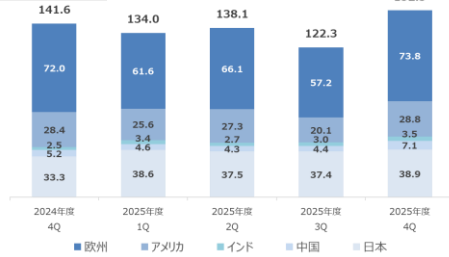
海外：前年対比 ▲55.3億円

◆主な増減要因 *単位：億円

欧州 ▲22.0 前年度に好調であった滅菌済シリンジは新規参入企業の影響などを受け、前年対比では売上が減少
*前四半期対比：+16.7億円 足許では、バイオ医薬品向けの滅菌済シリンジの販売拡大が進展

アメリカ ▲27.6 バイオ医薬品関連等の高付加価値ガラス管の販売が順調に推移したものの、バイアルでは依然として世界的なガラス容器の在庫調整の影響を受け、前年対比では売上が減少
*前四半期対比：+8.7億円 足許では在庫調整局面に回復兆候あり

四半期別売上高推移



12

- ファーマパッケージングセグメントの国内は非常に好調で収益性も高くありますが、それ以外の地域では、安売りをしている新興メーカーの市場参入や、市中在庫の滞留が影響し、伸び悩んでいます。
- 欧州・アメリカにおいて、アメリカは既に4ヶ月終わり、実績が出ていますが明確に回復の傾向が見え始めています。
- 欧州もその兆しが見え始めておりますので、今年度の予算につきましては達成の見込みとなっています。

単位：億円	2025年度	2026年度	増減額 (増減率)
	実績	通期予想※	
売上高	6,605.3	7,000.0	+394.7 +6.0%
売上原価	4,522.5	4,650.0	+127.5 +2.8%
売上総利益	2,082.8	2,350.0	+267.2
	31.5%	33.6%	+12.8%
販売管理費	1,706.5	1,950.0	+243.5
	25.8%	27.9%	+14.3%
営業利益	376.2	400.0	+23.8
	5.7%	5.7%	+6.3%
経常利益	197.2	274.0	+76.8
	3.0%	3.9%	+38.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	135.0	150.0	+15.0
	2.0%	2.1%	+11.1%

<期中平均レート>

	2025年度 期中平均レート	2026年度 通期予想レート	増減率
ドル	149.7	143.0	▲4.5%
ユーロ	169.5	169.0	▲0.3%
元	20.8	20.0	▲3.8%

※2026年度予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算定しており、中東情勢の影響については合理的に算出することが困難なため、2026年度予想には織り込んでおりません。

- ここからは来期予想に触れさせていただきます。
- 売上高は6.0%増収の7,000億円、粗利率は33.6%と2ポイント改善。販管費は大幅に増えるものの、何とか400億円の営業利益を確保しようという予算になっています。
- 販管費の243億円は、過去に比べても相当大的な増加ですが、こちらは2025年12月にM&Aで取得したボストンの血管内画像装置を開発している会社の販管費が75億円近く含まれていることで大幅増になっています。
- その75億円をこなしただ上で、今年に対して30億円の増益を見込んでいます。結果、最終利益150億円を見込んでいます。
- 期中レートにつきましては、今は日銀の対策のもと、どんどんと円安に進む傾向にありますが、保守的に円高の水準での換算になっています。

■ 設備投資額/減価償却費

	設備投資額			減価償却費		
	2025年度 実績	2026年度 通期予想	増減額 (増減率)	2025年度 実績	2026年度 通期予想	増減額 (増減率)
合計	640.7	490.2	▲150.5 ▲23.5%	616.7	581.5	▲35.2 ▲5.7%
医療関連	303.0	248.9	▲54.1 ▲17.8%	367.4	348.5	▲18.9 ▲5.1%
医薬関連	257.3	151.1	▲106.2 ▲41.3%	145.3	123.9	▲21.4 ▲14.7%
ファーマパッケージング	63.0	57.2	▲5.8 ▲9.2%	54.4	62.1	+7.7 +14.2%
その他	17.2	32.9	+15.7 +91.6%	49.5	46.9	▲2.6 ▲5.3%

※設備投資額は有形固定資産のみの投資額を記載
 ※26年度から国内会社についても定額法での減価償却方法を採用

■ 研究開発費

	2025年度 実績	2026年度 通期予想	増減額 (増減率)
研究開発費	268.1	284.0	+15.9 +5.9%
医療関連	173.0	179.3	+6.3 +3.6%
医薬関連	91.6	97.0	+5.4 +5.9%
ファーマパッケージング	3.4	7.7	+4.3 +126.5%

- 設備投資の予想ですが、補助金収入を控除しない投資額の有形固定資産分だけを記載しており、来年度は490億円を見込んでいます。
- 減価償却費は30億円程度減って見られますが、これは国内の有形固定資産の減価償却で機械装置について定率法をとっていたものを、グループの会計方針を全て統一していくため、長くメンテナンスすればしっかり使えるという機械の性質に合った定額法に変更しています。この変更が要因で減価償却費が一定程度減ったように見えています。
- 研究開発につきましては、本年度実績の若干増を見込んでいます。

	2025年度 実績	2026年度 通期予想	増減率 *円ベース
売上高計	5,236.1	5,624.0	+7.4%
医療機器	4,120.0	4,421.0	+7.3%
ニプロブランド			
日本	1,200.0	1,246.0	+3.8%
米州	1,132.9	1,153.0	+1.8%
欧州	596.0	643.0	+7.9%
アジア	487.0	583.0	+19.7%
中国	364.7	399.0	+9.4%
B2B	339.1	397.0	+17.1%
医薬(自社)	1,116.1	1,203.0	+7.8%
セグメント利益	523.3	537.0	+2.6%

	2025年度 期中平均レート	2026年度 通期予想レート	増減率
ドル	149.7	143.0	▲4.5%
ユーロ	169.5	169.0	▲0.3%
元	20.8	20.0	▲3.8%

売上高

◆主な増減要因

セグメント	地域	増減要因
医療機器	日本	HDFフィルターをはじめとした主要製品の出荷増などにより増収予想
	米州	大手透析プロバイダー契約継続に加え、高性能ダイアライザの拡販により増収予想
	欧州	新規入札獲得、高性能ダイアライザの拡販により増収予想
	アジア	シングルユース化によるダイアライザの拡販などで増収予想
	中国	集中購買継続採用により安定した受注を予想
B2B		GLP-1向け特殊針の需要減も、安全機構付き採血セット等の高付加価値製品の拡販を通じ、堅調な推移を見込む
医薬品(自社)		新規AGやBSの販売開始、抗菌薬や抗がん剤等の需要増加により、増収予想

営業利益

2026年度より新規連結するGenuity社の開発関連費用およびのれん償却の計上の影響、新規AGの販売権の償却開始等があるも、海外市場のダイアライザを中心とした拡販、国内市場のHDFフィルターの出荷増、医薬品(自社)の収益性改善も貢献し、増益見込み。

- 通期予想ですが、各セグメントの内訳をコメント記載していますのでご覧いただければと思います。

	2025年度 実績	2026年度 通期予想	増減率 *円ベース
売上高計	811.0	787.0	▲3.0%
他社受託			
GE品	326.4	310.0	▲5.0%
先発・長期収載品	356.2	359.0	+0.8%
OTC・原薬・その他	49.5	38.0	▲23.2%
JMIファーマ	78.8	80.0	+1.5%
セグメント利益	120.9	108.0	▲10.7%

売上高

◆主な増減要因

GE品	注射剤	新規受託品により一部増収するも、抗菌薬の受注減により減収
	経口剤	一部既存受託品の受注回復も、受託終了品目の影響により減収
先発・長期収載品	注射剤	新規受託品により増収するも、既存品の受託減により微減
	経口剤	新規品の販売伸長により増収

営業利益

先発品の新規受託の獲得、既存品の価格適正化による収益改善効果があるものの、近江工場稼働に伴う償却負担の増加等により減益見込み。

- 医薬関連につきましてもそれぞれ内訳をご覧くださいと思います。

	2025年度 実績	2026年度 通期予想	増減率 *円ベース
売上高計	546.8	582.0	+6.4%
日本	152.5	149.0	▲2.3%
欧州	258.8	281.0	+8.6%
アメリカ	102.0	119.0	+16.7%
中国	20.5	19.0	▲7.3%
インド	12.8	14.0	+9.4%
セグメント利益	▲15.8	13.0	-

	2025年度 期中平均レート	2026年度 通期予想レート	増減率
ドル	149.7	143.0	▲4.5%
ユーロ	169.5	169.0	▲0.3%
元	20.8	20.0	▲3.8%

売上高

◆主な増減要因

日本	キット製剤向けプラスチックパーツ等の安定的な需要拡大があるも、魔法瓶事業の撤退により、国内全体では前年を下回る
欧州	バイオ医薬品向け中心に滅菌済みシリンジを拡販
アメリカ	在庫調整局面からの回復に加え、高付加価値バイアルの拡販も進展

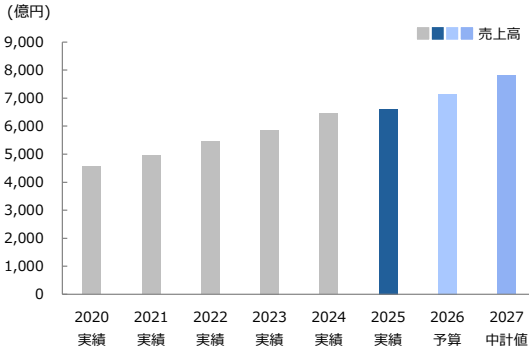
営業利益

海外市況の緩やかな回復、アメリカにおける高付加価値バイアルの販売拡大に加え、欧州等での製造体制再編や製造コスト削減を進めることにより、前年度から収益改善し、黒字化を見込む。

- ファーマパッケージングですが、それぞれの地域で特に中心になっている欧州・アメリカで明確に改善の兆しが出てきていますので、大幅な改善により最終的には13億円の利益改善を見込んでいます。

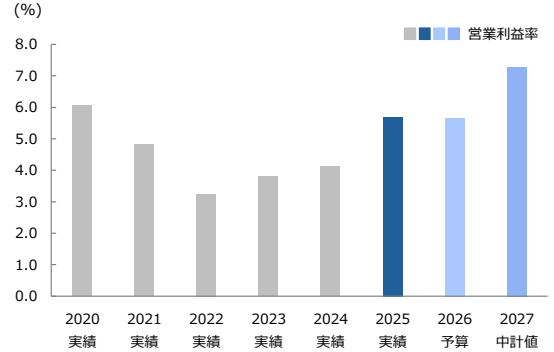
成長性

2025年度実績	売上高成長率 2.5%
中計目標	6.0%以上



収益性

2025年度実績	営業利益率 5.7%
中計目標	7.0%



18

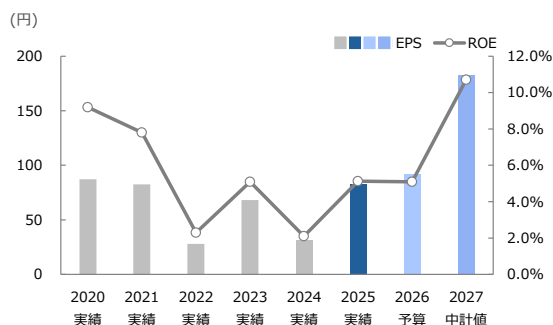
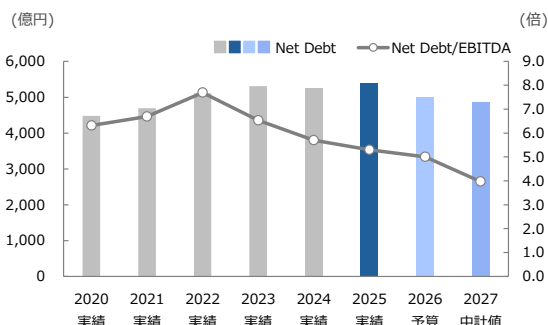
- 最後に、中期経営計画に対する進捗度についてご説明いたします。
- 売上高成長率は年平均6.0%の伸び率を掲げていましたが、本年度は2.5%で着地しました。
- 先ほど触れました内容に加えて、シェアを追うのではなく、値上げを優先し、とにかく利益率改善を優先した結果、少し伸び悩む部分が残ります。
- 一方で、利益ではその結果がしっかり出て、収益性の営業利益率が5.7%と、2年後の27年度に向けて残り1.3%というところまで改善が進んでいます。

財務健全性

	Net Debt(純有利子負債)	Net Debt/EBITDA倍率
2025年度実績	5,404億円	5.3倍
中計目標	4,870億円	4.0倍未満

資本効率

	EPS	ROE
2025年度実績	82.8円	5.1%
中計目標	180.0円以上	10.0%以上



19

- 財務健全性と資本効率のKPIに対する進捗度は、今年度のNet Debt/EBITDA倍率 5.3倍というところまで低下しています。
- 傾向をご覧くださいますと、この改善効果がきっちりと目標の4倍未満に向けて進んでいるというのがご覧いただけます。
- 中計目標としては純有利子負債4,870億円をこのときのEBITDAで割ると4倍未満で達成ということで、基本的に達成に向けてオンラインに進んでいると思っています。
- 一方、ROEは今年5.1%で、2年後には10.0%以上、EPSは今年82.8円で、2年後には180円以上を達成ということで倍の改善が必要になります。今年度から来年度への推移はほぼ横ばいに見えますが、要因は買収した企業の販管費負担が大幅に増えたことです。2027年度には当子会社の成果が出てくるということに加え、今年度見込んでいる再生医療の承認に伴う事業化で大幅な改善が達成される見込みになっています。

事業実態をより分かりやすくお伝えするため、来期より取扱製品と一致したセグメント区分へ変更します。

旧区分		2026年度からの開示区分	
セグメント	取扱製品	セグメント	取扱製品
医療セグメント	透析関連製品	医療セグメント	透析関連製品
	ホスピタル関連製品		ホスピタル関連製品
	バスキュラー関連製品		バスキュラー関連製品
	自社ブランド医薬品	医薬セグメント	自社ブランド医薬品
	再生医療製品		他社ブランド医薬品
医薬セグメント	他社ブランド医薬品	ファーマパッケージングセグメント	ファーマパッケージング製品
ファーマパッケージングセグメント	ファーマパッケージング製品	全社調整	本社費用
全社調整	本社費用		再生医療製品

※本変更は管理・表示区分の見直しによるものであり、連結業績合計に影響はありません。

- 最後にセグメント変更についてご説明させていただきます。
- これまでも投資家様からなかなか分かりにくいといわれていたところを分かりやすく直すべく、セグメント変更を行います。これに先立って、会社の中も指揮命令系統をこのセグメントに合わせた形で組織替えをしています。
- まず現セグメントですが、医療関連セグメントの中にこれだけの商品群というのが入っています。「自社ブランド医薬品」と「再生医療」が医療セグメントの中に入っていることで分かりずらくなっており、医薬セグメントは「他社ブランド医薬品（受託）」のみ、ファーマパッケージング、そして本社費用という内訳になっておりました。
- 2026年度からは医療セグメントの中に医療機器の事業を固め、「自社ブランド医薬品」は医薬セグメントの中に移して、医薬セグメントは「自社ブランド医薬品」と「他社ブランド医薬品（受託）」のセグメントになります。
- ファーマパッケージはそのままとし、「再生医療製品」は本承認を得られるまでの間は本社負担の新規事業開発ということで、全社調整の中に入れます。
- この中では表現されていませんが、本日現在、全社調整の中には本社費用に加え、医療機器と医薬品の研究費、未実現利益の調整が含まれています。
- 今後、医薬品と医療機器の研究費は本来あるべき各セグメントにそれぞれに振り分け、全社調整の中には新規事業の「再生医療製品」、「本社費用」、「未実現利益の調整」の3つがこの中に分類されるセグメントの整理になります。

Appendix

<期中平均レート>

	FY2024				FY2025				計画
	1月-3月	1月-6月	1月-9月	1月-12月	1月-3月	1月-6月	1月-9月	1月-12月	
¥/USD	149.88	154.06	151.59	152.24	151.21	147.48	147.78	149.78	139.00
¥/EUR	162.15	166.12	164.61	164.36	159.35	162.24	165.57	169.53	158.00
¥/CNY	20.74	21.25	21.05	21.12	20.75	20.34	20.48	20.87	20.00

<期末日レート>

	FY2024	FY2025	単位：億円	
	3月末	3月末	売上高	営業利益
¥/USD	149.52	159.88	10.4	0.9
¥/EUR	162.08	183.41	5.8	2.3
¥/CNY	20.59	23.11	18.4	8.4

<1円変動による年間影響額>

<製品分類表>

医療機器区分	
ダイアライザ	ダイアライザ（人工腎臓透析器）、HDFフィルター
透析機器	透析システム、メンテナンス、透析機器部品
その他透析関連	血液回路、AVFニードル（翼付留置針）他
注射針類	PSVニードル（翼付留置針）、セーフタッチニードル 他
バスキュラー関連製品	循環器治療用カテーテルセット、血栓吸引カテーテル 他
輸液関連製品	輸液セット、IVカメラ 他
検査製品	ネオチューブ 他
糖尿病関連製品	インスリン針、血糖測定器（海外向け）、ランセット
AT関連製品	補助人工心臓、人工肺
その他	医療器械、血液関連製品、培養商品、手袋 他

医薬品区分	
経口剤	経口剤
注射剤・輸液	シリンジキット、バイアル製剤、PLW、粉末透析剤、透析液 他
外用剤・貼付剤	外用剤、貼付剤
その他・体外診断薬 等	診断薬、医薬品、血糖測定器 他
ファーマパッケージング区分	
ガラス管関連	医薬用ガラス管、非医療用ガラス管
ガラス アンブル	アンブル（シングルチップ、ダブルチップ）
ガラス バイアル	バイアル（ブローバック、スクリュエー等）
ガラス シリンジ	シリンジ（ルアーロック、ルアースリップ、滅菌済等）
ゴム栓・栓体類	ゴム栓、栓体、栓・キャップ類
プラスチック容器	プラスチック品
魔法瓶	魔法瓶用ガラス
その他	ガラス容器その他、特殊ガラス容器、ガラス カートリッジ、その他など

セグメント別・製品群別の売上高



製品	セグメント 単位：億円	医療関連	医薬関連	ファーマパッケージング	その他	合計
		事業	事業	事業	事業	
医療機器	2025年度4Q 累計	3,929.4	-	(※3) 45.8	-	3,975.2
	2024年度4Q 累計	3,773.5	-	(※3) 43.1	-	3,816.7
医薬品	2025年度4Q 累計	(※1) 1,306.6	(※2) 811.0	11.1	-	2,128.9
	2024年度4Q 累計	(※1) 1,275.4	(※2) 791.2	6.5	-	2,073.2
ファーマパッケージング	2025年度4Q 累計	-	-	488.7	-	488.7
	2024年度4Q 累計	1.7	-	541.3	-	543.1
その他	2025年度4Q 累計	0.0	-	1.1	11.2	12.4
	2024年度4Q 累計	0.0	-	1.6	11.1	12.7
合計	2025年度4Q 累計	5,236.1	811.0	546.8	11.2	6,605.3
	2024年度4Q 累計	5,050.7	791.2	592.6	11.1	6,445.8

(※1) 自社ジェネリック医薬品

(※2) 受託製造医薬品

(※3) 注射剤類、輸液関連製品、検査製品

セグメント別・地域別の売上高



地域	セグメント	医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパッケージング 事業	その他 事業	合計
	単位：億円					
日本	2025年度4Q 累計	2,320.5	726.5	153.0	11.1	3,211.1
	2024年度4Q 累計	2,280.8	709.4	143.2	11.1	3,144.7
海外計	2025年度4Q 累計	2,915.6	84.5	393.8	0.1	3,394.2
	2024年度4Q 累計	2,769.9	81.7	449.3	-	3,301.1
米州	2025年度4Q 累計	1,230.0	-	95.0	0.1	1,325.2
	2024年度4Q 累計	1,170.1	-	131.2	-	1,301.4
欧州	2025年度4Q 累計	720.0	5.0	259.4	-	984.6
	2024年度4Q 累計	650.1	4.6	271.5	-	926.3
中国	2025年度4Q 累計	369.4	0.2	23.4	-	393.1
	2024年度4Q 累計	345.0	0.2	26.3	-	371.7
その他アジア	2025年度4Q 累計	596.0	79.2	15.9	-	691.2
	2024年度4Q 累計	604.5	76.8	20.1	0.0	701.5
合計	2025年度4Q 累計	5,236.1	811.0	546.8	11.2	6,605.3
	2024年度4Q 累計	5,050.7	791.2	592.6	11.1	6,445.8

製品別売上高（1）



	単位：億円	全社				海外				日本			
		2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額	増減率	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額	増減率	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額	増減率
【医療機器】													
<i>アイライザ</i>		1,097.9	1,171.3	+73.3	+6.7%	876.6	953.5	+76.8	+8.8%	221.2	217.7	▲3.4	▲1.6%
透析機器		312.0	319.0	+7.0	+2.3%	237.0	248.4	+11.3	+4.8%	74.9	70.6	▲4.3	▲5.8%
その他透析関連		624.8	671.3	+46.5	+7.4%	539.4	583.7	+44.3	+8.2%	85.4	87.6	+2.1	+2.6%
透析関連製品計		2,034.7	2,161.6	+126.9	+6.2%	1,653.1	1,785.6	+132.5	+8.0%	381.6	376.0	▲5.6	▲1.5%
注射針類 (※1)		595.2	625.4	+30.2	+5.1%	403.4	409.7	+6.3	+1.6%	191.8	215.6	+23.8	+12.4%
バスキュラー関連製品		339.5	365.2	+25.7	+7.6%	86.9	97.4	+10.4	+12.0%	252.5	267.8	+15.2	+6.1%
輸液関連製品		237.9	248.5	+10.6	+4.5%	100.9	104.0	+3.1	+3.1%	136.9	144.5	+7.5	+5.5%
検査製品 (※1)		80.2	77.0	▲3.1	▲4.0%	45.3	37.5	▲7.8	▲17.2%	34.8	39.5	+4.6	+13.3%
糖尿病関連製品		143.5	142.5	▲1.0	▲0.7%	131.3	129.0	▲2.2	▲1.7%	12.2	13.4	+1.1	+9.6%
AT関連製品 (※2)		99.3	99.1	▲0.2	▲0.3%	23.8	24.8	+0.9	+4.1%	75.5	74.2	▲1.2	▲1.6%
その他		280.7	247.0	▲33.7	▲12.0%	166.6	136.5	▲30.0	▲18.1%	114.0	110.4	▲3.6	▲3.2%
部門計		3,811.3	3,966.6	+155.3	+4.1%	2,611.6	2,725.0	+113.3	+4.3%	1,199.6	1,241.6	+42.0	+3.5%
【医薬品(自社)】													
経口剤		478.8	454.5	▲24.2	▲5.1%	0.2	0.3	+0.1	+55.7%	478.6	454.2	▲24.3	▲5.1%
注射剤・輸液		603.3	689.3	+85.9	+14.2%	152.9	187.2	+34.3	+22.4%	450.4	502.1	+51.6	+11.5%
外用剤・貼付剤		76.3	55.8	▲20.4	▲26.8%	-	-	-	-	76.3	55.8	▲20.4	▲26.8%
その他・体外診断薬等		116.8	106.8	▲9.9	▲8.5%	3.3	3.0	▲0.3	▲9.7%	113.4	103.8	▲9.6	▲8.5%
部門計		1,275.4	1,306.6	+31.2	+2.5%	156.5	190.6	+34.0	+21.8%	1,118.8	1,116.0	▲2.8	▲0.3%
【再生医療】													
再生医療等製品		5.4	8.5	+3.1	+58.6%	-	-	-	-	5.4	8.5	+3.1	+58.6%

(※1) 当期より「検査製品」に含まれていた「採血針等」を「注射針類」に変更しています。
(※2) 事業部名称変更に伴い「SD関連製品」を「AT(Advanced Therapy)関連製品」へ名称変更しています。

製品別売上高（2）



	単位：億円	全社				海外				日本			
		2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額	増減率	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額	増減率	2024年度 4Q累計	2025年度 4Q累計	増減額	増減率
【医薬品(受託)】													
経口剤		288.6	289.6	+1.0	+0.4%	0.4	0.3	+0.0	▲15.7%	288.1	289.3	+1.1	+0.4%
注射剤・輸液		352.3	385.3	+33.0	+9.4%	6.5	3.9	▲2.6	▲40.0%	345.8	381.4	+35.6	+10.3%
外用剤・貼付剤		51.8	40.4	▲11.4	▲22.0%	0.6	0.3	▲0.3	▲50.0%	51.2	40.1	▲11.1	▲21.7%
その他・体外診断薬 等		31.6	27.8	▲3.8	▲12.1%	+0.9	1.1	+0.2	-	30.7	26.7	▲4.0	▲13.2%
部門計		724.5	743.4	+18.8	+2.6%	8.4	5.7	▲2.7	▲32.5%	716.0	737.6	+21.6	+3.0%
【医薬品(JMIP)】													
経口剤		72.4	77.8	+5.3	+7.4%	72.4	77.8	+5.3	+7.4%	-	-	-	-
注射剤・輸液		0.7	0.9	+0.1	+20.9%	0.7	0.9	+0.1	+20.9%	-	-	-	-
部門計		73.2	78.8	+5.5	+7.6%	73.2	78.8	+5.5	+7.6%	-	-	-	-
【ファーマパッケージング】													
ガラス管関連		130.7	122.8	▲7.9	▲6.0%	104.8	95.8	▲8.9	▲8.6%	25.8	26.9	+1.0	+4.1%
ガラス アンブル		81.0	80.0	▲0.9	▲1.2%	80.8	79.8	▲0.9	▲1.2%	0.1	0.2	+0.0	+16.1%
ガラス バイアル		157.8	117.4	▲40.3	▲25.6%	137.3	98.7	▲38.5	▲28.1%	20.4	18.6	▲1.7	▲8.7%
ガラス シリンジ		104.2	83.3	▲20.8	▲20.0%	104.0	82.9	▲21.1	▲20.3%	0.1	0.4	+0.2	+143.4%
ゴム栓・栓体類		14.3	15.3	+0.9	+6.7%	0.0	0.0	+0.0	+32.8%	14.3	15.2	+0.9	+6.5%
プラスチック容器		19.4	21.4	+1.9	+10.0%	0.0	-	+0.0	▲100.0%	19.4	21.4	+1.9	+10.0%
魔法瓶		5.7	5.8	+0.1	+2.5%	-	-	-	-	5.7	5.8	+0.1	+2.5%
その他		29.7	42.3	+12.6	+42.4%	23.7	36.1	+12.4	+52.3%	6.0	6.2	+0.2	+3.5%
部門計		543.1	488.7	▲54.3	▲10.0%	450.8	393.6	▲57.1	▲12.7%	92.2	95.0	+2.8	+3.0%
【その他】													
生産機械販売・不動産賃貸		12.7	12.4	▲0.3	▲2.7%	0.3	0.3	+0.0	+10.2%	12.4	12.1	▲0.3	▲3.0%
連結合計		6,445.8	6,605.3	+159.5	+2.5%	3,301.1	3,394.2	+93.0	+2.8%	3,144.7	3,211.1	+66.4	+2.1%

本資料における予測数値等の将来に関する記述は、当社が現時点で
入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。
実際の業績等は今後の様々な要因により、本資料の記載事項と大きく異なる可能性があります。



すべての
いのちに、
よろこびを。